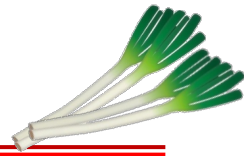




サンビオティック農業で大豊作！

白ネギ・深ネギ・葉ネギ 栽培基準



◆育苗◆

ステージ	目的	商品名	施用量・倍率	施用方法	備考
播種前	(ポット育苗) 培土改良	鈴成(粉末)	培土重量に対して 2~3%	培土と混和	普段から強い苗がでにくい時は、培土の改良をお勧めします。鈴成(粉末)を、培土重量に対して、2~3%重量混和します。混和後、すぐに播種できます。入れすぎると水はけを悪くする場合があるため、3%以下とします。
	(苗床育苗) 土づくり 元肥	完熟堆肥 有機石灰 菌力アップ	2~3トン 100~200kg 5~10リットル	全面散布 土壌混和	本圃「土づくり」を参照
		有機百倍 鈴成 (硫酸マグネシウム)	5~10袋/10a 5~10袋/10a 10~20kg/10a)	全面施肥	地力や時期等に応じて、施肥量を調節します。暖かい時期の育苗では少なめ、寒い時期は多めに施用します。必要に応じて硫酸苦土肥料を施用します。
播種 ~ 育苗期	発芽促進 生長促進 発根促進 病害抵抗性	菌力アップ	(ポット育苗) 500~800倍 (苗床育苗) 200倍	播種時から1週間 おきに頭上灌水、 または葉面散布	セルトレー、チェーンポットなど培土が少ない育苗方式の場合、菌力アップの希釈倍数は500~800倍とします。根張りや苗立枯病などの病害抵抗性の向上を目的とします。糖力アップやコーソゴールド、市販の液体肥料、または菌根菌資材などとの混用が可能です。発根が促進されると、肥料の吸収が良くなるので、肥料切れには注意してください。
	生長促進 発根促進 病害・乾燥耐 性	純正木酢液、 またはイーオス タスケルプ！	500~1000倍 3000倍	1週間おきに頭上 灌水、または葉面 散布	病害が出やすい時期や、乾燥・高温の場合におすす。液肥、農薬等と混用可能です。葉面散布では、展着剤を加用してください。ただし酸性が強いので菌力アップとは別で実施します。べと病、苗立枯病などの病気が多い場合は、本気Ca(マジカル)1000~2000倍希釈を加用します。

◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
定植前	土づくり	完熟堆肥	2~3トン	土壌混和	土壌pHは事前に確認し、6.5前後を目標に調整します。堆肥等は、最低でも1か月前には土壌混和します。五穀堆肥やバーク堆肥など植物質が多くC/N比(窒素炭素率)が15~25程度の方が望ましいです。水はけの悪い圃場では、もみ殻も500~1000kg程度施用することをおすすめします。病害の多い圃場では、窒素分の多い豚糞堆肥や鶏糞堆肥の使用を控えるか、使用する場合は500kg以下とします。堆肥散布後に菌力アップを散布し耕耘します。その後、時間があれば2~3週間後に再度菌力アップを散布し、耕耘します。前作が緑肥栽培の場合は、すき込み前に菌力アップを散布し、すき込みます。薬剤で土壌消毒を行う場合は、ガス抜き後3日程度空けて、菌力アップを散布します。太陽熱消毒や還元消毒を行う場合は、被覆前に菌力アップ10Lを希釈して散布し、処理後にも菌力アップ5Lを灌水します。菌力アップの施用量は通常5Lですが、前作にて土壌病害が出た場合や、連作障害が出やすい場合は10Lとします。
		有機石灰または転炉 スラグ肥料など	100~200kg	土壌混和	
菌力アップ		5~10リットル	全面散布		
定植前	元肥	有機百倍、または マッスルモンスター 鈴成 (硫酸マグネシウム)	1~8袋 3~10袋 10~20kg)	溝施肥、または全 面施肥	(白ネギ・深ネギ) 窒素肥料(有機百倍、マッスルモンスター)は、溝施肥の場合、春植え(秋冬どり)では1~3袋、夏植え(春どり)では3~4袋、冬植え(ハウス初夏どり)では7~8袋(全面施肥)程度が目安です。地域慣行基準の窒素量を目安に計算します。窒素肥料に対して、+2袋程度(最大10袋)の鈴成を施用します。必要に応じて硫酸苦土またはく溶性苦土肥料を施用します。(小ネギ・ワケギ・中ネギ) 周年栽培の葉ネギ(小ネギ・中ネギ等)では、各10~15袋/10a程度を全面散布し混和します。マルチ栽培の場合は、追肥が難しくなるので堆肥や元肥を多めに施用します。
	定植時	活着促進 生長促進	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	株元灌水 5~7日おきに3~4 回実施

◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
生育期間	追肥	有機百倍	1～3袋	土壌散布 (土寄せ時)	必要に応じて土寄せ時に追肥します。堆肥等の施用量が少なかった場合や砂質土壌の場合、雨が多い場合は、加里が不足する場合がありますので、硫酸加里肥料を5kg程度加えます。
	生長促進 発根促進	菌力アップ 糖力アップ マジ鉄	5リットル 5kg 100g	灌水(水1トン) 10日おき2～3回	地上部生育が重要な時期は土壌を乾燥させないようにします。菌力アップ、糖力アップを灌水し根の活力を維持します。 マルチ栽培の中ネギ(九条ネギ・鴨頭ネギなど)では、枯れ込み・株数の減少を防ぐため、刈り取り後は左記の灌水作業を2～3回実施します。この場合は、糖力アップを特濃糖力アップに変更するか、市販のNPK液肥を加用するとさらに良いです。
	生長促進	タスケルプ!	2000～3000倍	葉面散布 2～3週間おき	葉の展開スピードや葉の厚み、葉色が向上し、光合成効率も高まります。また耐病性も高まります。展着剤を加用してください。農薬との混用可です。
	高温・乾燥 葉先枯れ対策	イーオス 本気Ca(マジカル)	2リットル 2リットル	灌水(水1トン) 1週間おき 2～3回	7～8月の高温・乾燥期には、生長が鈍化し、カルシウム欠乏や葉先枯れ、または病害虫が発生しやすくなりますので、夕方～日暮れごろに左記の灌水を実施します。
	病害対策	本格にがり 本気Ca(マジカル) 純正木酢液	500～1000倍 1000～2000倍 500倍	葉面散布 1週間おき	べと病、さび病、葉枯病、菌核病などの茎葉病害が発生しやすい時期には、展着剤を加用し左記葉面散布を実施します。葉の細胞壁、バリア機能を強化し、病害への抵抗性を高めます。本気Caは、葉が汚れる場合がありますので、収穫前はより薄めてご利用ください。 農薬との混用可です。
	土壌病害の 対策	菌力アップ 本格にがり	10リットル 2リットル	土寄せ前散布 または、灌水 (水1トン程度) 1～2週間おき	白絹病、軟腐病が出やすい時期や圃場の場合は、継続的に1週間おきに菌力アップ、本格にがりを灌水したり、土寄せ前に灌水してから土寄せします。土壌微生物叢(相)を改善し、根の活力を高め、耐病性の高い状態を維持します。 粒剤の殺菌剤を施用する場合も、併用可です。 病害多発圃場では、土寄せ(培土)作業により根にダメージを与えている場合があります。根を切ってしまうことや、大量の培土により酸欠になるケースが多いです。土寄せ作業の回数や根の成長に合わせたタイミングや培土の量など、ダメージの少ないやり方を再検討しましょう。
水害・湿害発生時	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水します。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水します。	

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。